

平成 28 年度 社会薬学フォーラム

社会薬学フォーラムについて、下記の通り開催しますので、ご案内申しあげます。

1. テーマ 『リスクが潜む医薬品の個人輸入：偽造医薬品だけにとどまらない危険性』

2. 日時：2016年7月31日(日) 13:00～16:00 (受付 12:15～)

3. 場所：慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 2号館3階 355教室
〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30 TEL：03-3434-6241

4. 開催主旨

政府の規制改革会議は2016年5月19日、「規制改革に関する第4次答申～終わりなき挑戦～」を提出した。報告書では、2016年3月31日に電子処方箋が解禁されたことを受け、「処方箋により調剤される薬剤についても、インターネット等を活用した直接対面以外の販売形態を検討する前提条件の1つが整ったと考えられることから、今後取り組むべき課題として検討を進めることが重要である」と記載しており、今後、オンライン薬局の推進に向けて議論が進められていく可能性がある。

本邦においては、国内未承認薬で代替品がなく、外国で受けた薬物治療を継続する必要がある場合等を想定し、医薬品の個人輸入が認められている。しかし、一般消費者がインターネット上の個人輸入代行サイトを介して、性功能改善薬(ED治療薬)や抗肥満薬、点眼薬、抗アレルギー薬、抗精神病薬などを購入している実態が報告されており、本来の枠組みから外れた医薬品の個人輸入が散見される。このような現状が生じている一因として、消費者が偽造医薬品の危険性や医療用医薬品のリスクを十分に理解していないことがあげられるが、個人輸入といった形態であったとしても一般消費者が処方箋なしにネットを介し一般用医薬品以外の承認及び未承認医薬品を入手可能な現状に大きな問題がある。

本フォーラムでは、一般消費者によるネットを介した一般用医薬品以外の医薬品購入の実態について、アメリカを中心とした海外におけるオンライン薬局制度やネットでの医薬品の不正販売の監視体制や裁判事例について2名の講師から報告して頂く。現在の制度がネット社会に適合しているのか、また監視体制のあり方を見直す機会としたい。

【プログラム】

13:00 ～ 14:00 「一般消費者によるネットを介した一般用医薬品以外の医薬品購入の実態報告」

一般社団法人 偽造医薬品等情報センター事務局長 高梨宏

14:10 ～ 15:10 「アメリカを中心とした海外におけるオンライン薬局制度やネットでの医薬品の不正販売の監視体制や裁判事例」

LegitScript アジア政策・執行部長 岡沢宏美

15:10 ～ 16:00 総合討論

16:10 閉会

6. フォーラム参加者

日本社会薬学会会員、その他は医学薬学関係者とする。

7. 参加費： 会員 2,000 円 、 非会員 3,000 円 、 学生無料

8. 研修単位： 日本薬剤師研修センター 2 単位 (申請中)

以上